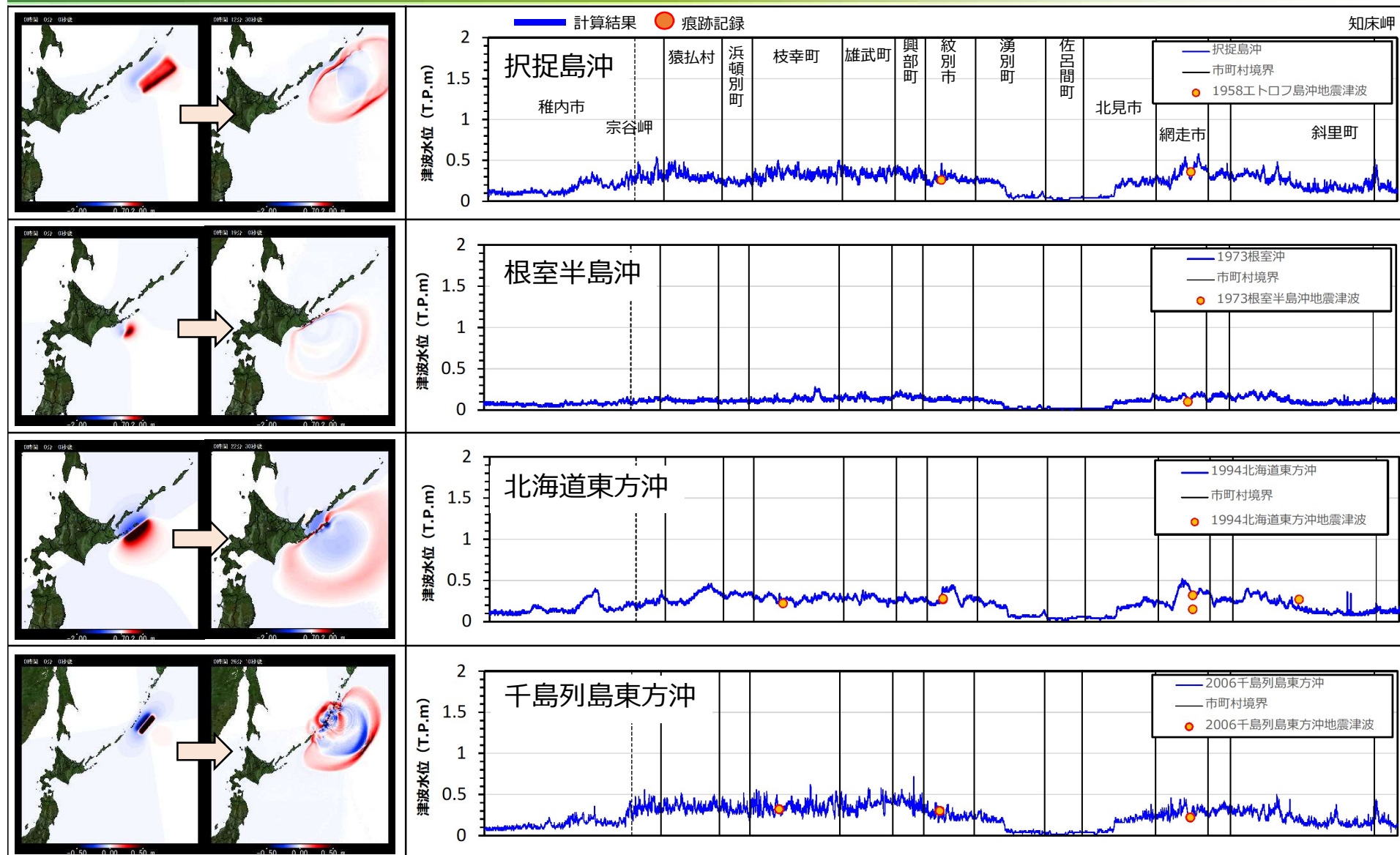
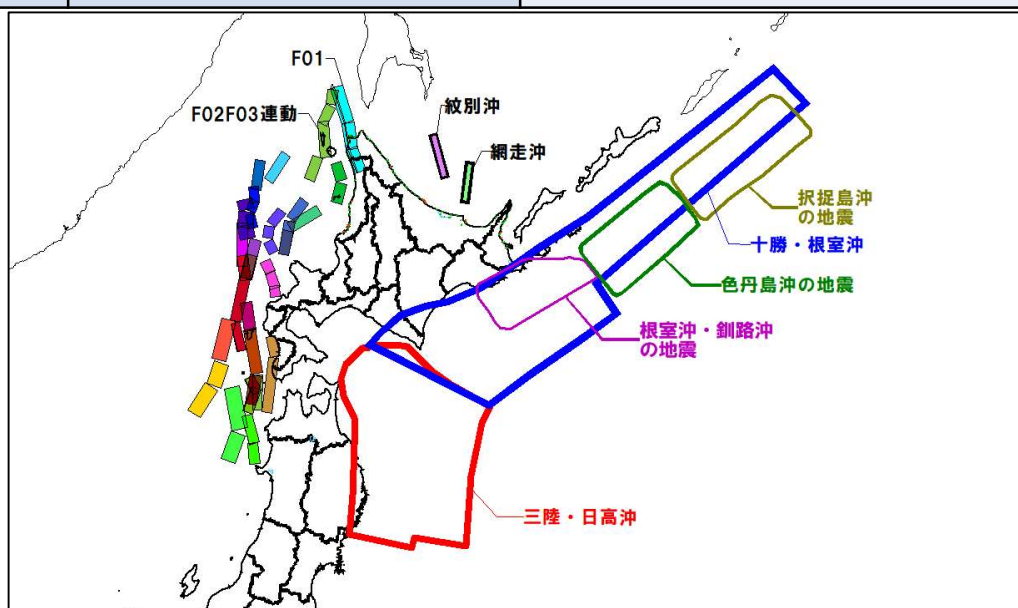


2-② 過去津波のシミュレーションによる津波高の整理 補完シミュレーション結果

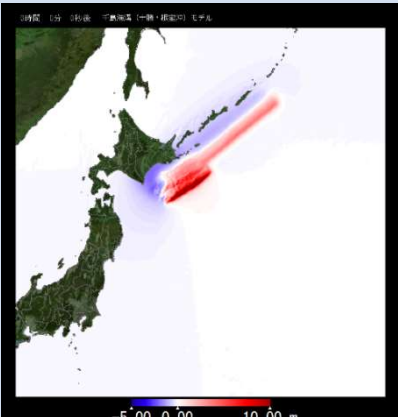
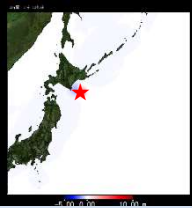
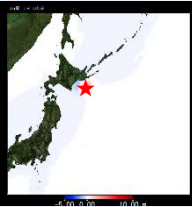
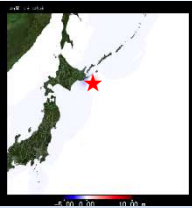
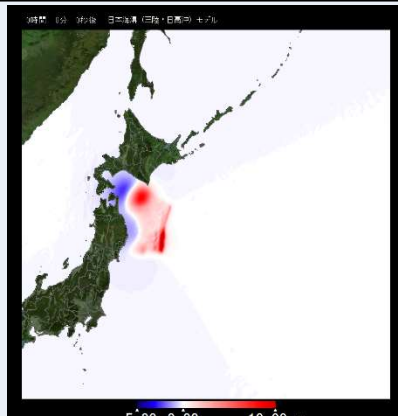
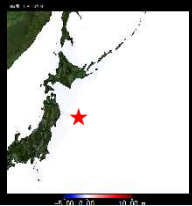
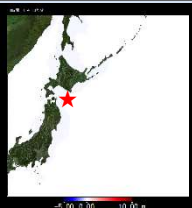


2-③ 既往想定津波のシミュレーションによる津波高の整理

想定津波	津波断層モデル	備考
色丹島沖	中央防災会議（H18）	色丹半島沖・北海道東方沖の地震津波に相当
択捉島沖	中央防災会議（H18）	択捉島沖の地震津波に相当
根室沖・釧路沖	中央防災会議（H18）	根室半島沖の地震津波に相当
日本海溝モデル	中央防災会議（R02.4）	三陸・日高沖①、②
千島海溝モデル	中央防災会議（R02.4）	十勝・根室沖①、②、③
日本海モデル	※国交省モデル（H26.8）	※既往計算結果からオホーツク海沿岸へ影響の大きいモデル選定
	北海道モデル（H29.2）	国交省モデル（H26.8）をベースに設定された北海道日本海沿岸の津波浸水想定モデル ※オホーツク海への影響の大きいモデル選定
紋別沖（紋別沖構造線）モデル	北海道モデル（H23.3）	北海道オホーツク海の津波浸水予測図モデル ※不確実性を考慮し、走向をいくつか設定。
網走沖（北見大和堆）モデル	北海道モデル（H23.3）	



2ー③ 既往想定津波のシミュレーションによる津波高の整理 太平洋沿岸「日本海溝・千島海溝巨大地震モデル検討会（R02.4）」

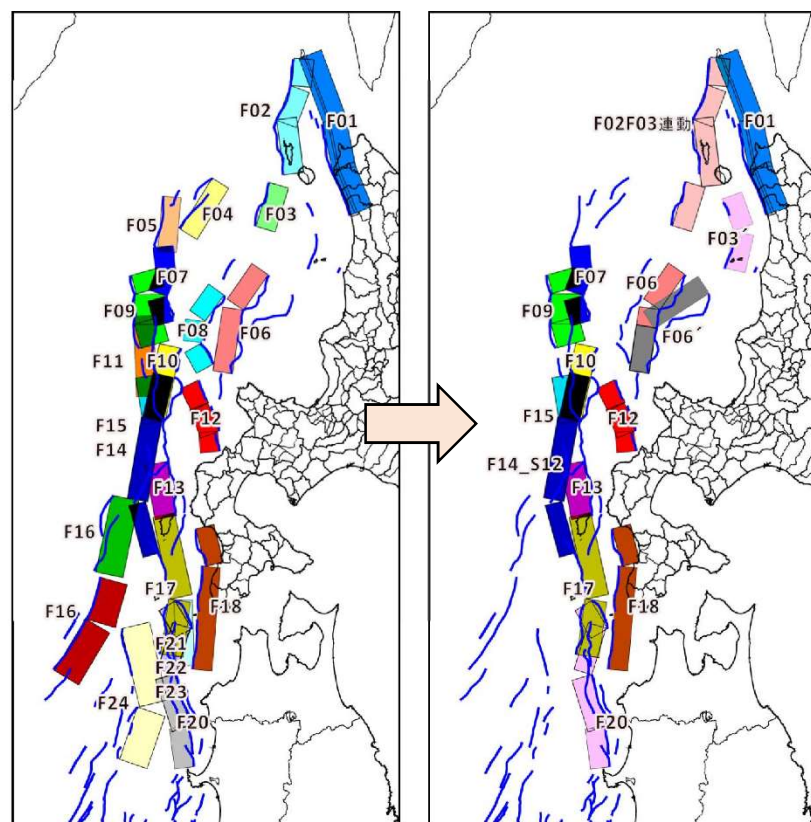
断層モデル	地盤変動量分布	破壊開始点★			
千島海溝モデル (十勝・根室沖)		①	十勝沖		津波断層破壊伝播 地震発生から370秒
		②	釧路沖		津波断層破壊伝播 地震発生から330秒
		③	根室沖		津波断層破壊伝播 地震発生から290秒
日本海溝モデル (三陸・日高沖)		①	三陸沖		津波断層破壊伝播 地震発生から170秒
		②	日高沖		津波断層破壊伝播 地震発生から170秒

2-③ 既往想定津波のシミュレーションによる津波高の整理 日本海沿岸「日本海における大規模地震に関する調査検討会（H26.8）」



北海道
18

道では、1993年北海道南西沖地震津波では、大すべり域が南側のセグメント（断層）に集中したことにより大きな津波が発生した実績があることから、大すべり域がセグメントの枠を超えて集中して発生するケースや、どのような位置・分布で発生する場合も想定して、すべての大すべり域の発生ケースを網羅できる計算方法が必要と考え、大すべり域が断層面の浅部全体に位置する津波断層モデルの大すべり域の配置を設定。

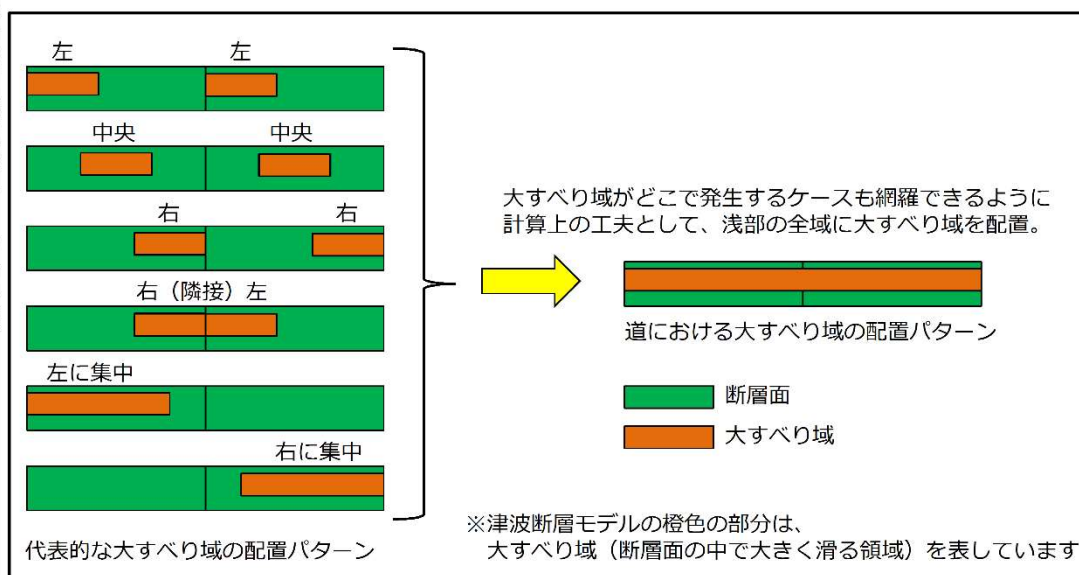


H26.8国公表モデル

H29.2道の公表モデル

国公表モデル（H26.8）

道公表モデル（H29.2）

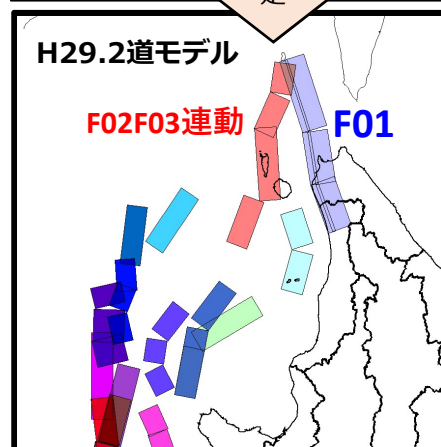
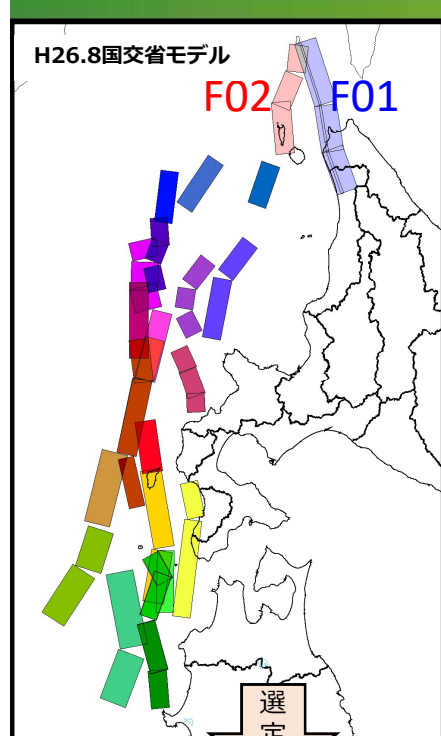


2-③ 既往想定津波のシミュレーションによる津波高の整理 日本海沿岸「日本海における大規模地震に関する調査検討会（H26.8）」



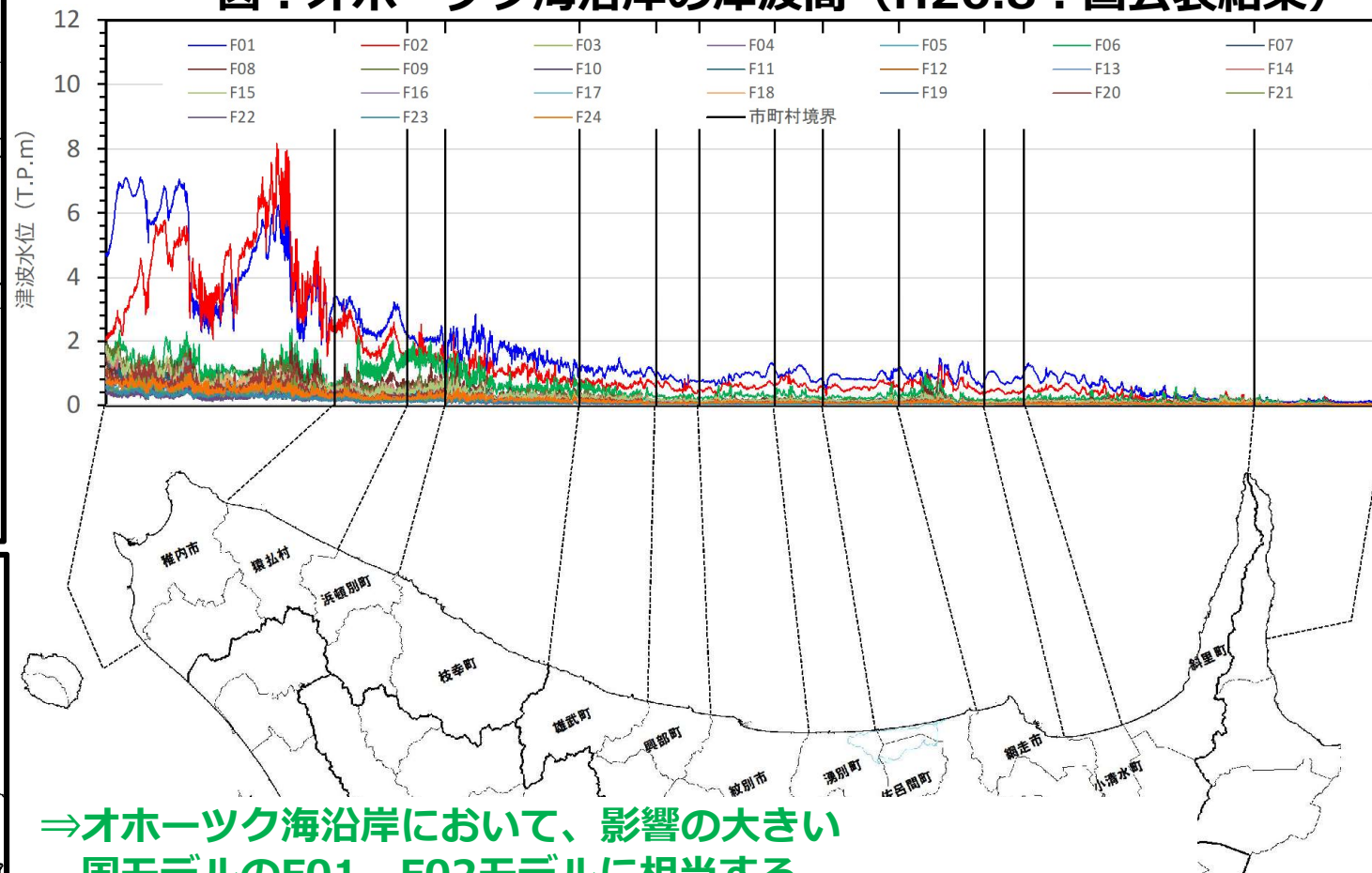
北海道

19



日本海沿岸を震源とする津波のオホーツク海での津波高の整理にあたって、H26.8国公表結果を整理し、影響が大きい津波断層モデルについて、H29.2北海道モデルに相当する断層を選定した。

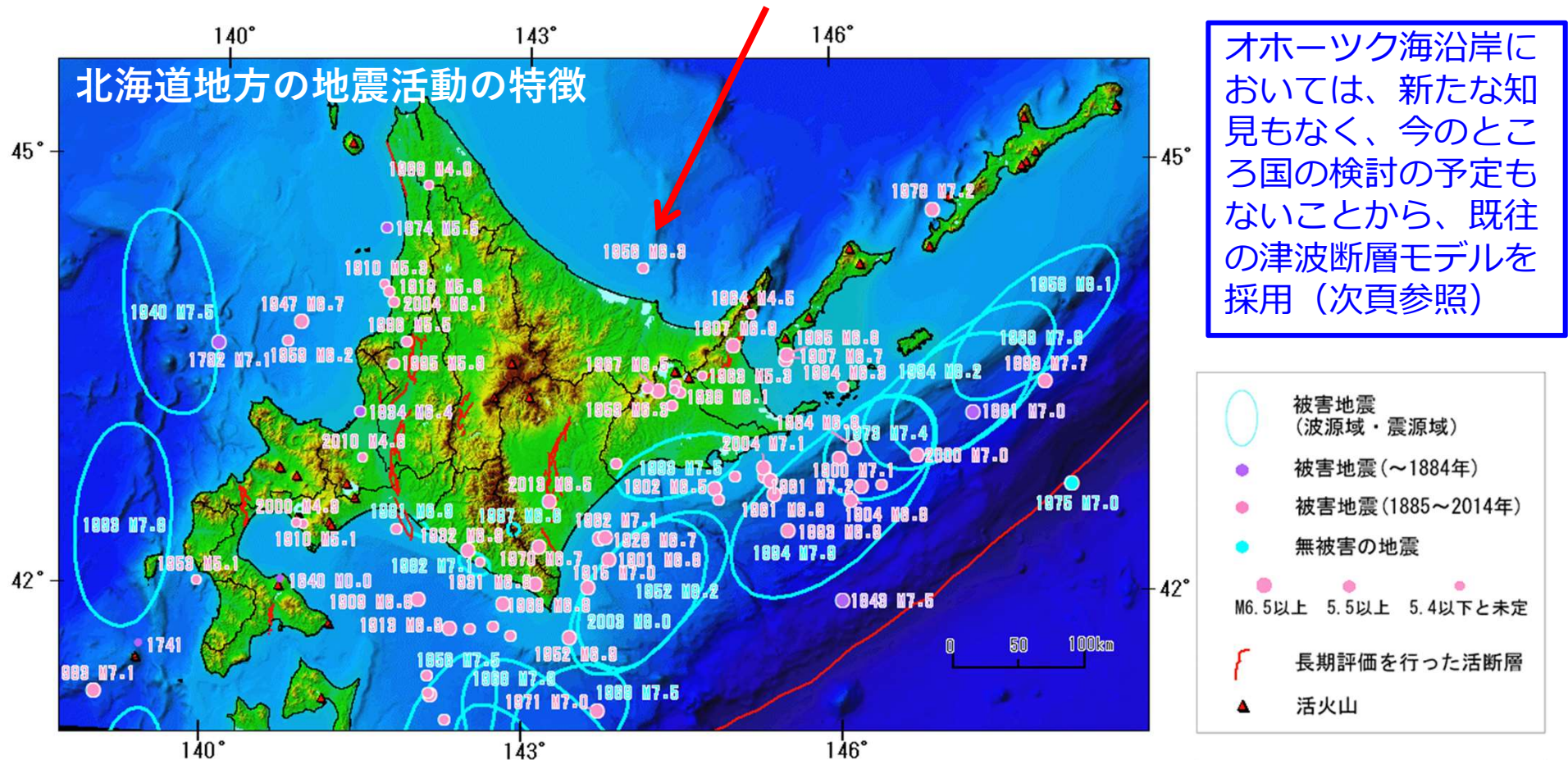
図：オホーツク海沿岸の津波高（H26.8：国公表結果）



⇒オホーツク海沿岸において、影響の大きい
国モデルのF01、F02モデルに相当する
H29.2北海道モデルのF01およびF02F03連動モデルを選定

2-③ 既往想定津波のシミュレーションによる津波高の整理 オホーツク海「オホーツク海津波浸水予測図（H23.3）」

北見山地からオホーツク海にかけての地域では、地震は多くなく。津波が観測された地震としては、1956年網走沖で発生した地震（M6.3）で、北見市常呂（ところ）町で地震の揺れによる小被害があり、網走市でごく小さな津波が観測された地震以外ない。



出典：地震調査研究推進本部：https://www.jishin.go.jp/regional_seismicity/rs_hokkaido/